

第2回 新潟市新バスシステム事業評価委員会 議事要旨

■日時:平成27年11月16日(月) 10:00～

■場所:新潟市役所 本館6階 第3委員会室

■出席者(敬称略)

委員

谷口守(筑波大学教授)

鈴木文彦(交通ジャーナリスト)

近野茂(公認会計士)

遠藤修司(新潟商工会議所専務理事)

時田美和(新潟青年会議所副理事長)

豊岡克(新潟市区自治協議会会長会議座長)

オブザーバー

瀬井威公(国土交通省北陸信越運輸局交通政策部長)

伴孝之(新潟県警察本部交通規制課長)

■議事概要

<開業直後の状況(運賃システムトラブル・連節バス事故・運行遅延)に関する主な意見>

- 開業直後の状況について、時間の経過により解消される性質の課題か、根本的な問題なのかを見極めることが重要。
- 大規模にバス路線を再編したもので、一定程度当初の混乱は避けられない。
- 運賃システムの不具合はきちんと検証し、記録として残すこと。
- 連節バスの事故は車両が連節バスであるが故の事故ではない。誤解が無いようにするべき。
- 新潟市と運行事業者は、一層の意思疎通を図り、改善に努められたい。

<開業後の運用状況に関する主な意見>

- 評価委員会はデータを論拠に議論する。運行データが即時収集できるよう長期的にも改善を。
- 運行側で、乗り継ぎが意識されていない運用が見受けられる。少しの対策で乗り継ぎは改善できる。
- 特に混雑するバス停においては、連節バスのスムーズな乗降方法の検討をした方がいいのでは。

<目安箱意見に関する主な意見>

- 意見収集方法として、サイレントマジョリティの意見収集のための方策も検討してみるとよい。

<今後の取り組み(冬ダイヤの考え方・ダイヤ改正・定時性・乗継・利便性向上策)に関する主な意見>

- 早期に改善可能なものと、長期的に改善可能なものの整理が必要。早期に改善可能なものは改善していくことがよい。
- 新バスシステム・BRTにおける認知度を高めるPRと、将来のまちづくりの全体像の提示があるとよい。
- 新バスシステムの課題は、BRTがうまく機能すれば解決できる。長期的に需要を捌くための専用走行路の導入や連節バスの8台への増車は必要。短期的にはBRT明示性を高めるべく、一般バスのBRTパネルのサイズを大きくすることや、バス路線図におけるBRTの明示化をするべきだと考える。

以上